

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和5年度農作物病害虫発生予察情報について

令和5年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

令和5年度農作物病害虫発生予報第3号

令和5年5月31日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.5%、発病度が0.0)。なお、補植用置き苗には発生を認めていない。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病度が0.1)。なお、補植用置き苗には発生を認めていない。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%と、平年(23.0%)並の発生であるが、25株当たり成虫数は0.3頭と、平年(0.8頭)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤による本田防除を行う。
- (2) 活着が悪い水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

サツマイモ

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が12.0%、被害葉率が0.6%)。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に、薬剤を散布する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が85.7%と、平年(58.9%)に比べてやや高いが、寄生株率は13.7%と、平年(15.9%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が35.7%、寄生葉率が4.5%と、平年(46.6%、3.6%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 摘果期に薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(30.0%)に比べてやや高いが、寄生新梢率は3.8%と、平年(4.1%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月の予察灯調査において、勝浦町及び上板町の誘殺数は、各種カメムシともに平年に比べて少なく推移している(表1)。
- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、6地点で越冬を確認した。越冬成虫は0.6頭/m²であり、平年(2.6頭/m²)よりやや低い越冬密度で、前年(成虫確認地点数が8地点、越冬成虫数が2.0頭/m²)に比べてやや低い越冬密度であった。
- (3) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年			2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
5	1	1	2	28	1	29	28	5	1	0	17	10	5	22	7
	2	2	10	24	3	171	18		2	5	38	11	3	166	6
	3	0	2	64	1	71	44		3	0	6	19	1	239	11
	4	0	0	93	5	17	36		4	0	3	28	2	16	9
	5	0	0	37	1	26	18		5	0	3	15	0	21	11
	6		0	49		139	35		6		1	27		70	17
6	1		0	34		15	13	6	1		0	7		9	7
	2		0	94		11	16		2		0	7		22	6

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(23.8%)並の発生であるが、発病株率は1.1%と、平年(5.3%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が17~23℃の時孢子飛散量が増加し蔓延が増加する。

- (2)多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布や発生初期の防除に重点をおく。
- (3)ネギは薬液が付着しにくいので、展着剤を加え、散布する。
- (4)肥料切れして草勢が衰えると発病が助長されるので、肥培管理を適切に行う。
- (5)被害葉は伝染源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

ネギアザミウマ

- 1) 予報内容
 - 発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中～多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が88.9%、被害度が7.4と、平年(94.1%、11.4)並の発生である。
 - (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
 - (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (3) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

- 1) 予報内容
 - 発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、被害度が0.3と、平年(69.2%、4.0)に比べてやや低い。
 - (2) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
 - (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (3) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

シロイチモジヨトウ

- 1) 予報内容
 - 発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 5月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、5月第1半旬から第5半旬にかけて、平年よりやや多く推移している(図1)。
 - (2) 5月第6半旬の夏ネギにおける巡回調査では、発生圃場率が22.2%、寄生株率が0.4%と、平年(1.1%、0.1%)に比べてやや高い。
 - (3) 高松地方気象台が5月25日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期に防除を行う。

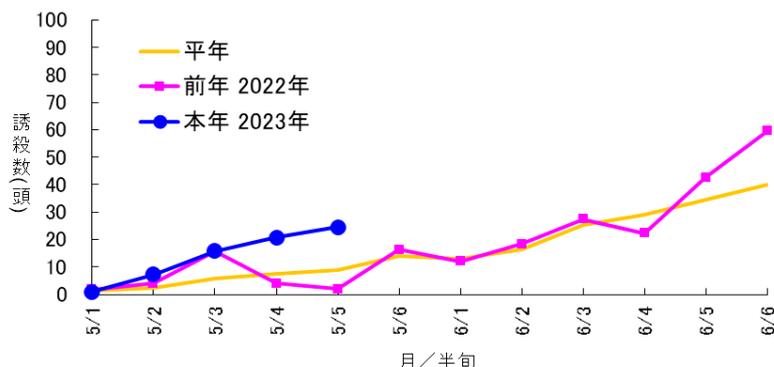


図1 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)
* 徳島市,石井町,阿波市,吉野川市の7地点平均

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。